

「新聞にふれよう、親しもう」

神戸市立成徳小学校 教諭 広部 健太郎

1. 学校としての取り組み

本年度は NIE 実践校として2年目の取り組みとなりました。

5年生の4クラスが国語と総合的な学習の一環として取り組みました。

2. 実践事例1（8時間）

①「新聞の1面を見よう。番組欄を見よう。」

- ・新聞の1面からさまざまな情報を取り出す。

例えば、○版 ○○新聞 発行所

○○新聞○○本社

○○○○年（平成○○年）

○月○日○曜日

○日○○時の天気図と衛星写真

- ・新聞の番組欄からさまざまな情報を取り出す。

例えば、「天気予報は一日のうちに何

回放送されているのか。」「ニュース番組は一日のうちに何回放送されているか。」

②「新聞を開いてみよう、めくってみよう。」

- ・新聞がどのような構成（リード文・小見出し）になっているかを知る。

例えば、1面の次は2面で総合、3面も総合、4面は政治、5面は広告など

③「カタカナ言葉や知っている漢字を探して調べる。」

- ・新聞からカタカナ言葉や知っている漢字などを探す。意味のわからないカタカナ言葉や漢字は、国語辞典・漢和辞典で調べ、新聞への親しみをもたせる。

④「親しみやすい写真やマンガで新聞を楽しむ。」

- ・印象に残る写真から新聞に親しむ。

- ・新聞の写真を選び、見出しを作り、感想文を書く。
- ・記事の内容を理解し、要約して相手に伝える。

につける。

例えば、旅行や環境をキーワードに記事を探し、切り取り、スクラップ新聞を作る。

⑤「自分でテーマを設定してスクラップ新聞を作る。」

(児童の作品例2)

- ・あるテーマに沿った記事を新聞から探す作業を通して新聞をより身近なものと感じる。



(児童の作品例1)



⑥「投書に対する自分の考えをまとめる。」

- ・投書を読み、立場の違いによる主張の違いを理解し、自分の意見をまとめる。

(自分の体験を踏まえて、自分の意見をまとめることができるとなるとよい。)

- ・情報を自分で集め、取捨選択をすることで、メディアリテラシーの基礎を身

⑦「新聞各紙を比較して報道の違いを知

る。」

- ・複数の新聞記事を読み比べ、書き手の意図により、論理展開や表現の仕方が違うことを理解する。
- ・課題意識をもって情報を取り出し、分析・評価し、自らの情報を発信して、メディアリテラシーを育成する。

※メディアリテラシーの定義を、「役立つ情報を自分なりに選択し、相手に分かりやすく伝える力。」とする。

⑧「ネット中傷について考える。」

2013年1月29日（火）の新聞記事をもとに、ネット中傷は「いじめ」であることを知る。



3. 実践事例2（1時間）

「新聞記者さんの話を聞こう」

「11月17日（水）のNIE授業の記者派遣の授業の概要」

(1) 記者派遣の講師「読売新聞の南部さやか記者」

(2) 授業の流れ

①「南部記者の自己紹介」

（神戸市東灘区で生まれ育ち、阪神大震災を経験したことや記者を目指したきっかけなど）

②「新聞記者」という職業についてイメージを児童に挙げてもらう。

「新聞を作る人です。」

「色々な情報や写真をみなさん（読者）に送っている。」

③実際の記者の仕事をDVD（会社見学者向けに本社で制作されたもの）で鑑賞（9分間）

④東日本大震災取材で感じたこと（岩手県大槌町で撮影した写真を見せながら）

⑤質疑応答

「情報を集めるためには、どんな苦勞がありますか。」

「命がけで取材などしたことはありますか。」

「一日に何時間働いて、給料はいくらですか。」

4. 新聞の置き場所

本校の5年生は4クラスでNIE実践に取り組みました。

2ヶ月に渡って届けられる新聞は、およそ1週間分をためて、分けて配布しました。ローテーションはしませんでした。

新聞の置き場所としては特設のコナーは設けずに、各教室後方のロッカーの上に設置しました。

5. 新聞の整理の方法

授業の中で必要な記事を切り抜いてスクラップしたり、さまざまな情報を読み取ったりした後は、一まとめに

してリサイクルしました。

6. 実践前後の変化（児童はどのように変わったか）

①家でも新聞の一面やスポーツ面を見ることが多くなりました。

②担任が教室で前日の新聞記事の話をする時、「その記事を見ました。」と、反応する児童がNIE実践前よりも5割も増えました。

7. 今後の課題（反省点や課題）

ある新聞記者さんから「先生、将来、新聞はなくなると、私は思います。

でも、新聞記者の仕事はなくなりません。」というお話をうかがいました。

私は、新聞自体がなくなってしまうというお話を衝撃を受けました。

課題が多すぎると感じました。

安倍晋三内閣総理大臣は「教育は国家百年の計」とおっしゃっています。

教師としてNIE実践を進めていく大切さを痛感しています。